



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2023

9月29日号

196
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

Re:volution



副会長 鈴木 雅 博

近年、医療の世界は多くの挑戦と変革に直面しながら様々な制約や変化に対応してきました。特にCOVID-19の影響による医療体制の変化は大きな注目を浴びるなか、私たちは結束し、新しい方法やアプローチを見つけ出し、医療の質を守り続けてきました。

「コロナ開け」とともに、私たちが歩む道も新たな局面に突入します。この変化を捉え、進化する医療の中でどのように貢献していくかが求められています。タスクシフトという言葉が意味する通り、今、診療放射線技師には柔軟性と適応力が求められています。新しい役割や技術を受け入れ、その中で自らの成長と専門性を深めていく覚悟が大切になってきます。

医療技術は日々進化しており、新たな診療方法や画像診断技術が登場しています。私たち診療放射線技師は、これに対応するために常に学び続け、新しいスキルを身につける必要があります。業務拡大は、ただ新しい技術を導入するだけでなく、患者とのコミュニケーションやチームとの連携力も求められます。これによって、より綿密な診療計画を立て、患者にとって最適な診断結果を提供することができるようになります。

しかしながら、これらの変革を進めるには課題も多く存在します。医療現場は、人々の命にかかわる重要な場所であり、安全性と確実性を重要視しなければなりません。新たな技術や働き方の導入に際しては、慎重な検討と適切なトレーニングが欠かせません。また、職業の魅力を高めるためには、適切な労働環境や報酬体系の整備も欠かせません。私たちはこれらの課題にも真摯に向き合い、医療の未来を担う一員として、自己を高めていく覚悟が求められています。

最後に、学会は知識を深め、最新のトレンドを共有する場になります。特に時事の動向や技術の進歩が速い医療分野では、新しい情報をキャッチアップし、自己成長の一翼を担う重要な機会となります。皆さんの専門知識がさらに深まり、医療現場での貢献度が高まるだけでなく、学会の場や研修を通じて、新たな仲間との出会いや知識の交換が、より一層の成長をもたらすことになります。今年度の学術大会は集合型での開催となります。多くの皆さんが大会に参加して頂き、新しい技術や知識を身につけ、臨床現場での自信に繋げていただければと思います。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 広 藤 喜 章

会員の皆様、こんにちは。昨年より赴任しております広藤と申します。今回は加藤学科長からのご指名を受け、この場をお借りして皆様にいくつかの報告と感想をお伝えさせていただきます。

さて、8月と9月は夏休みの期間でもあり、校内が学生で賑わっていないかと思いきや、実情は少し違っていました。特に8月下旬までは多くの学生たちが朝から夜遅くまでキャンパスに足を運び、自主学習に励んでいました。その主な目的は、第一種放射線取扱主任者試験に向けた厳しい勉強でした。私自身が学生だった頃には見られなかったこのような熱心な学びの姿勢に、非常に感銘を受けました。さらに、この期間中に他大学からの訪問があり、その先生方も「この学生たちは非常に熱心で、ウチの学生も見習って欲しい」などといった感想をいただきました。ただ、その一方で学生たちが過度に真面目であるがゆえに、学生生活のバランスについては、教員として一抹の懸念も感じています。

話は変わりますが、令和5年7月8日(土)に本学部のオープンキャンパスが開催されました。過去数年は新型コロナウイルスの影響で参加制限がありました。昨年は高校生のみ400名までの制限がありましたが、今年は5類に移行したこともあり、制限を設けずに開催となりました。さて、当日はというと……朝から雨模様でしたが、開場前には正面玄関からキャンパスを一周するほどの人出で、まるでとあるコンサート開演前のような状況になりました。想定以上の来校者にキャンパス内は騒然とし、特に本学科は大勢の人が入れるスペースも少なく、カオスな状態となりました。スタートから終了まで人が途切れることもなく、学生・教員スタッフ全員がヘトヘトになりながら、各ブースで本学科の特徴のPRを行いました。結局、想定をはるかに超える1,354名の方にご参加いただきましたが、学生・教員・スタッフ全員が丸となって成功に導きました。本学科の魅力は、十分に伝わったと思います。

現在、本キャンパスの1階エントランスと2階図書室は、一般の方々にも開放しております。近隣にお越しの際は、事前に教員にご一報いただければ、時間にもよりますが、学内の見学も可能です。この機会にぜひとも、我が学科の雰囲気を感じていただければと思います。





～ 県会長 + JART地域理事 「オンレコ」 ～

1 「昨年度の電子申告POSS」 6月末

公益社団法人として電子申告を行いました。阿部事務局長を始め各副会長さんのご尽力により申請が出来ました。最後の方で私は体調不良に陥りましたが皆さんに助けていただきました。

2 「フレッシューズセミナー」 7月2日

久しぶりの集合型でのフレッシューズセミナーを太田西ノ内病院で開催しました。27名の新人技師が参加して研修を受けてくれました。担当した堀江理事・池田理事・大原特別事務職・樵さん、ありがとうございました。

3 「第2回執行部会及び第2回理事会」

7月6日

午後から執行部会を事務所で開催し、17時から理事会をハイブリッド開催しました。①今年度限定の記念誌発行委員会の設立、②地域協議会からの役員を入れた各委員会、③執行部会を部局とし構成は会長・副会長・事務局・監事、④理事会等でのWeb会議での通信雑費について、以上を承認しました。

4 「第2回東北会長会議」

8月18日

TCRT2023のJART企画や会則について議論を行いました。次回は10月初旬を予定しています。また東

北デジタル研究会からの寄付も承認されました。

5 「県管理士セミナー」

8月26日

今回も素晴らしい企画で多くの方も参加して欲しかったです。他の地域協議会研修や東北消化器、釈迦堂川も花火大会も重なっていました。ご尽力いただいた管理士部会の皆さんご苦労様でした。

6 「県学術大会でのJART共催」

10月22日

JARTとのレントゲン週間イベントに申請して共催にしました。JART名前入りマスキングテープ220個が届きますので参加者に配布する予定です。

研 修 会 報 告

「2023年度 福島県放射線管理士セミナー」開催

福島県放射線管理士部会

佐久間守雄

8月26日(土)にポラリス保健看護学院にて開催され、県内外から13名の参加がありました。「各施設の診療用放射線安全利用のための研修への取り組み～皆さんのご施設ではどのように対応していますか～」では3施設から報告があり、限られた条件のもと、院内体制の構築、研修資料の作成や検討、対象者の選定を行いながら研修を実施している様子がうかがえました。特別講演は、福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科の広藤喜章先生より「医療での被ばく相談のポイントー受け



手に必要な知識とは一」と題し、相談者との信頼関係の構築からリスクへの知見、コミュニケーションスキルと幅広い内容をご講義いただきました。質疑応答や参加者同士の交流も多く見られ、対面型で開催して良かったと改めて感じたセミナーでした。



地 区 だ よ り

県 南 地 区

「令和5年度 県南地区サマーセミナー」開催

8月19日(土)に開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響がまだある状況のため、Web開催にて実施となりました。参加者は、会員22名・非会員6名でした。

セミナーは2セッションより行われました。1つ目はメーカー情報提供となり、「ZIO STATIONに関する最新情報」と「SYNAPSE VINCENT最新情報紹介」の2社の講演がされました。「ZIO STATIONに関する最新情報」では、ザイオソフト株式会社の知重大輔氏から最新の技術から手術支援加算に関する内容まで幅広い内容でした。また「SYNAPSE VINCENT最新情報紹介」では、富士メディカル株式会社の田村浩崇氏から自動処理、解析技術の紹介や他モダリティとの重ね合わせに関する技術紹介などの内容でした。2社ともに素晴らしい特徴があり、自施設に導入を検討する際には選択に悩む方も多くなるのではないのでしょうか。

2つ目は「タスクシフトへ向けた取り組み」であり、診療放射線技師法が2021年10月に改正されてから約1年半が経ち、各施設でのタスクシフトへの対応や研修の状況の情報共有の意味合いから今回の企画となりました。最初にファシリテーターからの現状として、福島県放射線技師会の告示研修のファシリテーターを務めている太田西ノ内病院の大原亮平氏から、改めて「告示研修に関すること」「業務拡大に関すること」などをファシリテーターの立場から講演をして頂きました。続いて県南地区の施設報告として、施設でのタスクシフトに関する考えや対応を坪井病院の濱端孝彦氏から報告がありました。また、協議会委員施設内のアンケート報告として県南地区協議会事務局の総合南東北病院の三瓶孝氏からアンケート結果の報告がありました。更に運用開始施設より、県南地区の施設の中で業務拡大を実際に広く実施している星総合病院の続橋順市氏から、運用開始までの流れや実際の業務拡大の内容、対応など様々な観点からわかりやすく講演をして頂きました。各施設

の状況や考え方によってさまざまな対応がされており、すべての項目を実施している施設はないものの、タスクシフトに向けての準備は確実に行われていることが分かりました。情報の共有と共に、不安を払拭しながらタスクシフトが進むよう協力していきたいと感じました。

(鍵谷)

浜 通 地 区

「令和5年度 浜通地区協議会 学術大会・夏季研修会」開催

8月26日(土)にいわき市医療センターにて開催されました。参加総数は38名でした。

装置メーカーセッションでは、3社より最新の画像診断装置についてご講演いただきました。低被曝、高分解能・高コントラストの技術進歩が進んでいることを感じました。

学術発表では、6施設から様々な分野における検討が発表され、久しぶりの会場開催でしたが、参加者の方々が熱心に聞き入っている様子が印象的でした。

特別講演では、太田西ノ内病院糖尿病センターの太田節先生より「知っておいてほしい糖尿病のこと」と題し、ご講演いただきました。たくさんある糖尿病薬の中で、診療放射線技師になじみのある薬剤といえば「ビグアナイド系糖尿病薬」です。皆様ご存じの通り、ヨード造影剤と併用注意とされており、また、血糖変動を測定する機器「リブレ」は、検査時に取り外さなければならない場合がありますが、センサーは高額(約6,000円)です。CT検査などの撮影部位によっては、外す

必要がないとのことでした。糖尿病について、理解を深めることが出来たよい機会となりました。



(白土)

学術大会開催のお知らせ

(公社)福島県診療放射線技師学術大会

開催日：令和5年10月22日(日)

会 場：公益財団法人星総合病院

ポラリス保健看護学院メグレズホール

編 集 後 記

新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた夏祭りや花火大会などのイベントが、多くの地区で4年ぶりに開催されました。日本の夏の風物詩がようやく戻ってきたことを実感しました。しかし、今年の夏は特に暑く、福島市で観測された35℃以上の猛暑日が34日あったようです(9/10現在)。毎日のように熱中症警戒アラートが発出されたり、線状降水帯やゲリラ豪雨などに注意したりすること、夏の風物詩となってしまいました。自然には逆らえませんが、“Our Team”お互いがつながり合い、絆の心で、自然災害を乗り越えていきましょう。

(風間)